



留学だより Vol.8

こんにちは。ドイツのミュンヘンに留学中の松木です。今回は4月のドイツをお届けします。今月はやっと春になってきたと桜や緑になった気を見て思います。ミュンヘンには意外と桜が植えてあって日本を懐かしく感じています。

◎ホストチェンジ

今月、残りあと3か月ですがホストチェンジをしました。カナダに留学していたホストシスターが帰国する関係で家に場所がなくなってしまい、残念ながらホストチェンジしなければいけない状況でした。かなり急に決まったのでかなり慌てましたが、ホストファミリーの友人家族が受け入れてくださったおかげで、学校もミュンヘンでの生活もそれほど変えることなくチェンジができたのでよかったです。

新しいホストはファザーとマザーとの3人生活です。2人ともとても優しく、急なのにホストチェンジを受け入れてくれてリスペクトです。2人シスターもいるのですが、1人は大学に行っていて、もう1人は留学をしています。会う機会があるといいなと思っています。ペットは猫が2匹で、よくねこと遊んでいます。前のファミリーにはペットがいなかったのうれしいです。

ホストチェンジをしてみると、家族の食事や生活、価値観の違いに気づきます。正直ホストチェンジをする不安もあったのですが、ふたを開けてみるとホストチェンジも新しい刺激になりました。気持ちも切り替えることができ最近ではアクティブになった気がします。他の留学生に聞いてみても、意外と多くの人がチェンジを経験しています。理由は様々ですが、うまくいかなくなってチェンジすることも少なくなさそうです。



猫たち



新しい部屋

◎フランス旅行

前のホストとフランス旅行に行きました。ファザーがフランス人なので、ファザーの実家の訪問も含めて1週間ほど滞在しました。ファザーの故郷はLangresという小さい街で、畑や森がたくさんあり休暇を過ごすにはもってこいでした。ファザーの兄弟が日本の映画やゲームがすきで、天気も悪かったので、みんなで映画鑑賞をしたりゲームをしたりしていました。フランスは日本文化を好きな人が多いらしく、スーパーでも大量の漫画が売られていました。

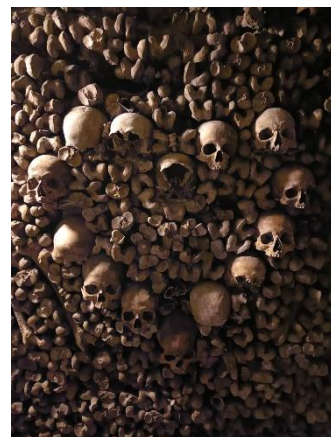
パリはドイツ留学の中で行ければ絶対行きたいと思っていた都市だったので最高でした。ホストに大感謝です。街中を歩いていてもパリ独特の、白い壁に紺の屋根の美しい建物ばかり並んでおり、パリの名所を巡る前に、すでに今まで訪れた都市の中で圧倒的1位の都市だなと確信しました。春になったばかりで若葉の淡い緑色と合わさって街中どこで写真を撮っても綺麗な写真になりました。

パリは観光名所の宝庫でもあります。ファミリーが乗り気ではなかったのでルーブル美術館にはよっただけで中には入れませんでした。観光客全員がモナ・リザを見るために立ち寄るそうです。ルーブル美術館の代わりに印象派の作品が大量に展示してある美術館に行きました。もちろんエッフェル塔も見に行きました。ホストが船のクルーズを予約してくれたのですが、セーヌ川の水上からは全体が見渡せ、幸せな景色でした。パリの大学生はバゲットとペーストなどを買ってセーヌ川の川辺に座ってランチをするそうです。私もそんな大学生活を送ってみたいものです。凱旋門も圧巻でした。

今回の観光でパリの少し変わった一面も見られました。パリの地下には200年ほど前に壊れた墓地の遺骨が埋葬されたカタコンベという巨大地下墓地があります。私も一回テレビで見たことがあったのですが、迷路のような複雑な地下道がパリ中にあり華々しい地上のパリとは真逆のような異様な光景が広がっているらしいのです。今回、そのなかの墓地のエリアを見ることができました。フランス人のファザーも初めての場所で、どんな感じなのかは想像もできませんでしたが、地下に行きとても驚きました。地下かなり深くに潜り、狭い通路を進んだ先に待っていたのは、数千人・数万人ぶんの遺骨でした。頭蓋骨、腕の骨など別々に、でも整理されて積まれた遺骨はかなり不気味な雰囲気を醸し出していましたが、一方で崩れずに今まで残っているのは感動的でした。パリ観光で少し変わったことがしたい方にはとてもおすすめです。

フランス料理も堪能しました。昔からエスカルゴのファンだったのですが、本物を食べることができ満足でした。ラタトゥイユやタルタルなどのフランス料理もおいしかったです。パン屋の焼き立てのバゲットもそのまま食べられるぐらいおいしかったです。

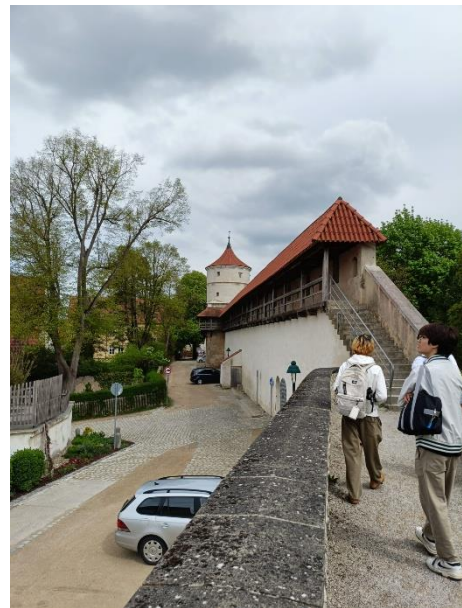
フランスに行くことができ本当に幸せでした。ホストには感謝の気持ちでいっぱいです。いつかフランス語を話せるようになってもう一回行きたいと思います。





◎ネルトリンゲン、進撃の巨人

みなさんはネルトリンゲンというドイツの小さな都市をご存じでしょうか。ネルトリンゲンは隕石の衝突によりできたクレーターにできた都市であり、そのクレーターの端に壁が建設され、壁で囲まれた小さな街です。その形から日本などでは進撃の巨人の都市に似ているとして有名です。今回日本人・中国人留学生を誘っていってきました。公式的な進撃の巨人のモデル地ではないので風景が似ているだけなのですが、行ってみるととても美しい街でした。町の中心には教会があり塔の上からの景色は圧巻でした。



壁は街全体をかこっていて、漫画ほど高くはないものの、それを彷彿させる見た目ではありました。進撃の巨人は登場人物の名前でわかるようにドイツ文化や建築にインスピレーションを得て作られたのだと思います。黄土色の屋根の建物も進撃の巨人を感じさせました。

自分たち以外にもたくさんアジア人観光客が訪れていました。壁のところには中国語や日本語で落書きがされていて、少しマナーの悪さを感じましたが、ネルトリンゲンはドイツ観光の中でもおすすめです。



←街の地図

塔の上から→



◎ダッハウ強制収容所

なかなか行けてなかったダッハウ強制収容所に行ってきました。実際に使われていた部屋や焼却炉、博物館を見て回ることができました。入場は基本的に無料で誰でも見ることができます。博物館の内容はかなりショッキングで、ダッハウにおいて何が行われていたのか詳細に展示されており、学校では学ばないリアルなところを知ることができてよい体験になりました。

ダッハウはもともと普通の刑務所でしたが、ナチスによるユダヤ人や少数派の迫害が始まるとすぐにそれらの人々を収監するための強制収容所になります。一般的にユダヤ人の人々が迫害されていたというイメージがありますが、性的マイノリティの人々や反抗的な態度を絶った人など多種多様な人々が収監されていたそうです。収監された人々は人権を尊重されていないような生活を送り、暴力は当たり前だったそうです。特に衝撃だったのは、それらの人々を殺すために作られた焼却炉とガス室でした。今まで授業や本でしか見たことがなかったものを目の当たりにし、衝撃を受けました。友達がポーランドでアウシュヴィッツ強制収容所を見てきたそうですが、ヨーロッパを訪れる際には歴史の暗い部分を学びに収容所などを訪れるのも大事だと思います。

ガス室



受刑者の部屋



焼却炉

